５解釈と鑑賞

Ａ＊のうす紫の花に降る

　　雨を思ヘり

　　都の雨に 石川

Ｂ　昼①ながらかに光る蛍一つ

＊のをでて消えたり 北原

Ｃ　雪の上に春の木の花散りふ

　　　　すがしさにあらむわが死に顔は 前田

Ｄ＊のこそよけれ霧②ながら

　　　　朝はつめたき水くみにけり

Ｅ③啄木鳥や落ち葉をいそぐ牧の木々 水原

Ｆ　日当たりながら落ちにけり 高浜

Ｇ　らも海かけて飛べき流し 石田

Ｈ　しづかなる力満ちゆとぶ

＊語注

＊馬鈴薯…じゃがいも。

＊孟宗…孟宗竹のこと。

＊白埴の瓶…白いをかけて作った花瓶。

＊吹き流し…の節句に立てるのぼりなど。

＊螇蚸…バッタ科昆虫の総称。後ろ足が長く、よくとびはねる。

問１　Ａの短歌について、作者は⑴どこで、⑵何を見て、⑶何を思っているか。それぞれ最も適当なものをア～ウから選び、記号を○で囲め。

　　ア　故郷　　　　 　　ア　都の雨　　　 　　ア　都のこと

⑴　イ　都　　　　　 ⑵　イ　馬鈴薯の花　 ⑶　イ　故郷のこと

　　ウ　馬鈴薯の畑　 　　ウ　故郷の雨　　 　　ウ　旧友のこと

問２　――線部①・②の最も適当な意味をそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

ア　～ではあるが　　イ　～しつつ　　ウ　～もろともに

①＝（　　　）　　②＝（　　　）

問３　次の項目に該当する短歌をＡ～Ｄからそれぞれ選び、記号で答えよ。

①　字余りの歌＝（　　　）（　　　）

②　倒置法の歌＝（　　　）（　　　）

問４　――線部③の説明として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　空高く飛んでいる啄木鳥。

イ　木にとまっている鮮やかな色の啄木鳥。

ウ　でく音を響かせている啄木鳥。

問５　Ｂの短歌と同じ季節の俳句をＥ～Ｈから選び、記号で答えよ。

（　　　）

問６　次の鑑賞文に該当するものをＡ～Ｈから選び、記号で答えよ。

①　死を思う澄んだ心境がうかがわれる。　 （　　　）

②　気品高い秋の早朝の気配。 （　　　）

③　大景の中に、小動物への愛情が打ち出されている。 （　　　）

④　小さな動きから大きな天地の運行をみごとに表出する。 （　　　）

⑤　微妙な変化を見つめ、一瞬の緊張を見事にとらえている。 （　　　）

【解答】

問１　⑴イ　⑵ア　⑶イ

問２　①ア　②ウ

問３　①Ｂ・Ｃ　②Ａ・Ｃ

問４　ウ

問５　Ｇ

問６　①Ｃ　②Ｄ　③Ｇ　④Ｆ　⑤Ｈ

ポイント

問１　「都の雨」を見ながら、「馬鈴薯のうす紫の花に降る雨」を思い浮かべた歌。

問３　①Ｂ「蛍一つ／孟宗の藪を」、Ｃ「雪の上に／すがしさにあらむ」の部分が字余り。

②Ａ「都の雨に馬鈴薯のうす紫の花に降る雨を思ヘり」、Ｃ「わが死に顔はすがしさにあらむ」が通常。

問５　Ｂは「蛍」の夏の歌。Ｅ「啄木鳥」の秋、Ｆ「桐一葉」の秋、Ｇ「吹き流し」の夏、Ｈ「螇蚸」の秋。